

塩野義製薬株式会社御中

「Mother to Mother プロジェクト」第4年次 月次報告①

対象期間：2018年10月1日～2018年11月30日

1. 支援事業概要

事業名：	Mother to Mother Shionogi Project
事業地：	ケニア共和国 ナロク県 オスプロコ郡 エランガタ・エンテリット地区
事業期間：	2018年4月～2019年9月（事業4年目）
対象人口：	741世帯（住民3,545人）
年間予算：	2,000万円（啓発教育費及び地域開発援助事業管理費等18.5%を含む）
活動目的：	水衛生環境の改善を中心としたマルチセクターの取り組みを行い、住民への啓発と意識・行動変容を通して対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。また、下痢と栄養状態を指標として、その効果の調査・研究を行います。

2. 進捗報告

第4年次に予定している12の活動のうち、対象期間に実施した活動についてご報告いたします。

活動① 水供給施設の整備

ワールド・ビジョン・ジャパンの自己資金にて、エランガタ・エンテリット水管理委員会13名（男性10名、女性3名）を組織しました。今後、本委員会が水施設の維持管理や水の使用・購入ルール等を策定していきます。また、井戸は2019年1月に自己資金にて掘削予定です。

活動② 衛生施設の建設方法の普及

エランガタ・エンテリットの村落保健員42人（男性35人、女性7人）に対し、屋外排泄を根絶するための行動変容の手法であるCLTS（Community-Led Total Sanitation）を実施するためのトレーナー研修を実施しました。CLTSはエランガタ・エンテリット地区4カ所で実施をする予定です。CLTSではトリガリングと呼ばれるワークショップを実施します。村落保健員が住民と共に村を歩き回って屋外排泄の状況を確認し、その後村の地図を描いて屋外排泄を確認した場所をマークしていくことで、その村でどれほどの屋外排泄があるかを視覚的に捉えます。そして排泄物が流れ出た川の水やハエを通じて人間の口に最終的に入ってきていることを、デモンストレーションを通じて認識します。嫌悪感からトイレを建設したいという動機付けをし、住民自身でのトイレ建設を促します。



CLTS の基礎知識の講義のあと、トリガリングのデモンストレーションを実施（イメージ図）

活動⑨ 巡回診療

第4年次は毎月エランガタ・エンテリット地区で巡回診療を実施していきます。これまでと同様、保健省、村落保健員、アドボカシー・グループで連携して実施をしています。村落保健員とアドボカシー・グループはコミュニティをまわり、巡回診療があることを人々に伝え、受診を促します。また、妊産婦や授乳婦、5歳未満児のその後のフォローアップを実施しています。

報告期間には、5歳未満児156人（男子98人、女子58人）が予防接種を受け、そのうち22人（男子11人、女子11人）が完遂することができました。予防接種を全く受けずにいた子ども2人を追跡し、親や保護者に予防接種の意義と未実施の予防接種の情報を伝え、一人でも多くの子どもが予防接種を完遂してより健康に過ごすことができるように、啓発活動を行っています。

エランガタ・エンテリット診療所でこの期間に4人の赤ちゃんが産まれました。診療所のスタッフと村落保健員は、出産後のお母さんに対して、子どもの発育、完全母乳、適切な栄養、水衛生など、子どものケアに関して基本的なことがらの教育を行っています。

また、対象期間中に19人の妊産婦および83人の授乳婦が診察を受け、産前健診やHIV検査、尿検査、血液検査、VDRL（梅毒）検査、葉酸や破傷風トキソイドの投与などの母子保健サービスを受けました。8人の妊産婦がHIV検査を受け、9人が4回の産前健診受診を完了しました。

活動⑩ コミュニティでの栄養教育

保健省と協働の上、巡回診療や診療所にて子どもの栄養状態を確認し、栄養不良児に栄養補助食の支給を継続的に行っています。対象期間に5歳未満児417人（男子218人、女子199人）の栄養調査（身長・体重・MUACなど）を実施、28人が栄養不良と診断され（うち4人が急性栄養不良）、栄養補助食の支援等を受けることができました。



栄養不良の子どもには、RUTF (Ready-to-Use Therapeutic Food) と呼ばれる栄養補助食を配布しています。

【連絡先】

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F

TEL: 03-5334-5350 FAX: 03-5334-5359

担当: 平田 (マーケティング第1部 法人・特別ドナー課)